

さいたま市立浦和博物館館報

あかんさす

VOL. 52

通号 第 121 号

「あかんさす」とは、浦和博物館2階バルコニー柱頭に見られる植物の葉の彫刻で、当館を象徴するキーワードの一つとなっているものです。

ご存知ですか？^{つき}調公園のラジオ塔

浦和区岸町の調公園。歳の瀬に調神社で開催される「十二日まち」で熊手商が立ち並ぶ公園の一角に、灯籠のような石造物があるのをご存知でしょうか。「わんぱく広場」と「うんどう遊園」の間にひっそりと立つこの石造物は、昭和15年（1940）に建てられた「ラジオ塔」です。ラジオ塔とは、正式名称を「公衆用聴取施設」といい、ラジオとスピーカーを内蔵したものです。

同年6月23日付の『東京日日新聞』に「市民の耳に贈り物 浦和調公園に放送塔」という見出しで「大日本放送協会ではラジオ普及運動の一つとして各府県に一ヶ所づつの割合で市民散策地に放送塔を設けることになり、本県では、浦和市調神社公園内にこのほど着工、七月初めから七球の大スピーカーが昼夜の別なく市民の耳へサービスを開始する」と掲載されています（『浦和市史 近代資料編Ⅱ』）。

■ 目 次 ■

| | |
|------------------|-----|
| 調公園のラジオ塔 | 1～3 |
| 資料紹介 - 二基の板石塔婆 - | 3 |
| 未来くるワーク体験 | 4 |
| 令和5年度日誌抄 | 4 |



日本のラジオ放送は、大正14年（1925）3月1日、社団法人東京放送の試験放送から始まりました。同年3月22日には、仮放送が開始され、この日を「放送記念日」と制定しています。

当時のラジオ受信機は、天然鉱石の結晶を利用していたため「鉱石ラジオ」と呼ばれ、専用のレシーバーを耳に当てて放送を聞くものです。ラジオを手に入れるには、海外から買い求めるか、自ら受信機を組み立てる必要がありました。受信機の他にアンテナ、アース等に使う銅線、銅板、碍子等付属品を含めると30余円になったといえます。大正15年（1926）の東京での白米10kgの標準価格が3円20銭ということですから、誰でも買えるものではありませんでした。さらに、ラジオを聞くためには、年1円の特許料と放送局に月1円の聴取料を支払わなければならない、仮放送中に埼玉県保安課が実施したラジオの聴衆状況の調査では、浦和23台、大宮19台との報告があります（『新編埼玉県史』資料編25）。

仮放送では、時報、定時ニュース、気象予報、料理番組、英語講座などの教養講座、ラジオドラマと増えていき、同年7月12日からの本放送では子ども向けの放送も始まりました。

昭和2年（1927）2月には、大正天皇の大喪の実況中継、8月には全国中等学校優勝野球大会（現在の全国高等学校野球選手権大会）、相撲なども生中継で提供されるようになり、ラジオの契約者は全国で50万人を突破します。昭和3年（1928）には、スピーカーを通して大勢が放送を聴くことができる国産の真空管ラジオも販売されました。

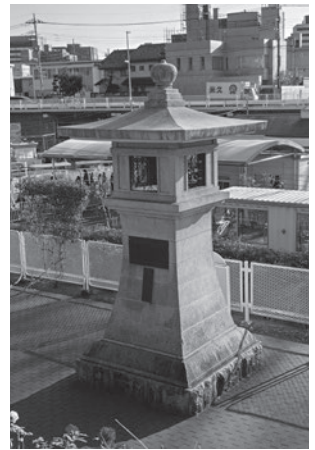
大阪放送局では、さらなるラジオの普及を図るため、昭和5年（1930）に大阪市天王寺公園内にラジオ塔を建てています。一般大衆にラジオ放送を聞かせるための施設で、スイッチを押すと、10分間放送を聴くことができました。その後、昭和6年（1931）に奈良市奈良公園、神戸市湊川公園（以上現存せず）、昭和7年（1932）に京都市円山公園にラジオ塔を設置しました。

円山公園のラジオ塔は、高さ約3m、上部にスピーカーを配置し、塔内部にラジオ受信機を設置するための扉があり、人が入れるようになっています。塔に設置された銘板には「当時は毎朝 塔の前でラジオ体操を楽しむ姿が見られ 又特に人気の高かった野球中継の際は 塔をとりまいたファンが一投一打にかん声を上げていました」との一節と共に、ラジオを聴く人々の写真が掲げられています。

その後、ラジオ聴衆100万人突破を記念し、社団法人日本放送協会は、昭和7年度に大都市の公園の他全国50か所にラジオ塔を建設する「百万突破記念施設」事業を計画し、40基が建設されました。



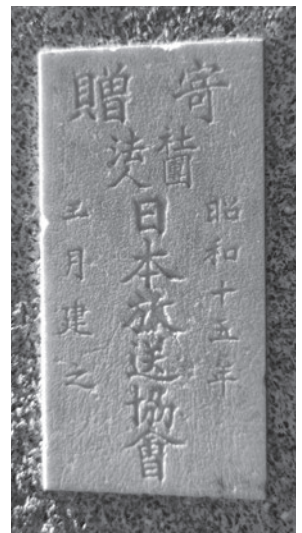
▲ 京都市円山公園のラジオ塔（昭和57年修復）



▲ 「百万突破記念施設」として建てられたラジオ塔 ▲
左：横浜市野毛山公園
右：前橋市中央児童遊園（登録有形文化財）

その後もラジオ塔は関西を中心に僅かに建設されていきますが、昭和14年（1939）から昭和16年（1941）にかけて、全国的に建設が進みます。「各府県に1か所ずつ設置する」旨の記録は、先に掲載した東京日日新聞の記事以外見つけることができませんが、この時期に全国で400基以上が建設されています。県内では、川越の川越市グラウンド（現初雁球場）、東松山の町営運動場（現存せず）と調公園に見られます。

調公園のラジオ塔は、昭和15年建てら



▲ 調公園ラジオ塔の銘板



れたもので、高さ約2.2m、幅約1.2m。社団法人日本放送協会が寄贈したものである旨、ラジオ塔に取り付けられています。これまでのラジオ塔と異なり、背面に扉は見えません。上部にスピーカー付の真空管が7球あるラジオを設置したとみられ、現況は、開口していますが、周囲に切り込みがあることから、鉄柵を巡らせていたと思われます。円山公園のラジオ塔と同じように、供出があったのでしょうか。現存するラジオ塔の多くは、金属部品を失っている物が多く見られます。



▲ 名古屋市志賀公園のラジオ塔（昭和18年）

戦時下においては、国威発揚にも用いられたラジオ塔ですが、戦後は家庭にラジオが普及したこともあり、その役割を終えます。戦時中に壊れたものや戦後撤去されたものもあり、約40基が現存するのみです。中には、堺市大浜公園にあるラ

ジオ塔のように、復元したものもあります。百万突破記念施設の一つであるラジオ塔の発見を期に、同じ公園内の別の場所に復元をしています。塔内には音響設備を内蔵し、朝6時30分にはラジオ体操が、正午などにメロディーが自動的に奏でられています。



▲ 堺市大浜公園のラジオ塔 ▲
左：昭和8年 右：平成23年（復元）

さいたま市でラジオ塔の存在が明らかになったのは、令和3年(2021)のこと。撤去されずに残ったラジオ塔を見に行ってみませんか。

(T)

❖ 資料紹介 - 二基の板石塔婆 - ❖

令和6年2月、緑区中野田にある宗教法人明照寺様から2基の板石塔婆をお預かりしました。ともに、市の文化財に指定されているものです。阿弥陀如来や阿弥陀三尊の種子が刻まれることが多い板石塔婆ですが、この2基は、地蔵菩薩と釈迦如来の種子が刻まれた珍しいものです。

地蔵種子の板石塔婆は、「貞和三年丁亥」（1347）の銘を持つもので、全長113.2cm、中ほどで2つに折れたものを修復しています。指定当時、地蔵種子の板石塔婆はこれ以外にはない非常に珍しいもので、地蔵信仰を知る貴重な作例として指定を受けました。

釈迦種子の板石塔婆は、「康暦三年四月廿七日」（1381）銘をもつもので、全長106.5cmを測ります。緑区大崎の板石塔婆（市指定文化財）と一対をなす板石塔婆であることが知られています。



▲ 左：地蔵種子板石塔婆 右：釈迦種子板石塔婆



中学生職場体験事業「^み未来くるワーク体験」

今年度も、浦和博物館では中学生の職場体験の受け入れを行いました。片柳中学校、三室中学校、木崎中学校、本太中学校、尾間木中学校、浦和実業学園中学校の6校、20人の生徒が原則3日間の活動を行いました。

開館の準備や掃除をはじめ、働く意義や、学芸員の仕事について講義を受けたほか、館内の資料を一つ選択し、選んだ資料のスケッチや、説明文の作成を行いました。また、質問にも答えられるよう準備を整え最終日に展示解説を行っていただきました。

普段、見るだけの資料に触れたり、解説文を作成したりと、少しでも博物館の仕事に興味を持ってもらえたのではないかと思います。



▲ 自画像とともに、作成したパネルを展示しています

日誌抄 (令和5年度)

| | |
|-------------------|--------------------------------|
| 4月29日 | さいたま市民の日記念スプリングコンサート |
| 6月6日 | さとえ学園小学校(4年生)体験学習 |
| 7月21日～7月30日 | 博物館学芸員実習 |
| 7月22日・23日・25日・26日 | 夏休みこども博物館講座「まが玉づくり」 |
| 7月28日 | 夏休みこども博物館講座「埼玉高速鉄道見学会」 |
| 7月30日 | 夏休みこども博物館講座「縄文土器づくり」 |
| 10月5日 | 三室小学校(2年生)まち探検 |
| 10月17日～12月10日 | 収蔵品展「さいたまに海があった時代」 |
| 10月29日 | 収蔵品展関連講座「貝塚は宝の山」 |
| 11月9日 | 春日部市立桜川小学校(4年生)体験学習 |
| 11月11日・12日 | 「見沼通船堀のしくみ実験」及び「農具・民具から学ぶ昔の知恵」 |
| 11月14日 | 埼玉県民の日記念「鉄道ペーパークラフト教室」 |
| 11月23日 | 親子探鳥会 |
| 12月3日 | 浦和博物館講座「さいたまゆかりの人物」 |
| 12月9日 | 収蔵品展関連講座「さいたまの貝塚」 |
| 12月22日～2月29日 | 企画展「ちょっと昔の暮らし展」 |
| 12月23日 | うらはくクリスマスコンサート |
| 1月17日 | 徳力小学校(3年生)体験学習 |
| 2月2日 | 三室小学校(3年生)体験学習 |
| 2月20日・3月5日 | 浦和ルーテル学院小学校(3年生)体験学習 |
| 2月21日 | 芝原小学校(3年生)体験学習 |
| 3月20日 | うらはくスプリングコンサート |

さいたま市立浦和博物館館報 **あかんさす** No.121

編集・発行 さいたま市立浦和博物館
〒336-0911 さいたま市緑区三室2458 TEL・FAX 048-874-3960
発行日 令和6年3月19日
ホームページ <https://www.city.saitama.jp/004/005/004/005/002/index.html>
E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp



浦和博物館HPへ

この館報は2,000部作成し、一部当たりの印刷経費は約27円です。

